



西幼だより

令和7年6月26日
新潟市立西幼稚園

【教育目標】
しなやかに
たくましく

ブログも見てね！



(西幼稚園 HP)

〇〇かもしれない

園長 渡邊 舞

みんなは今日も砂場で遊んでいます。時折、海の方から吹いてくる心地よい風が子どもたちの「おもしろい」「やってみよう」という気持ちを後押ししてくれているようです。

穴を掘り、溝を掘り、その脇に山を作り、平らだった砂場に少しずつ凹凸ができていきます。凹凸が増えていくこの状況を単なる砂遊びという言葉で片付けてしまうのは、もったいないと思っています。毎日が壮大で学びがいっぱいの、大プロジェクトなのです。



ある日の砂場。大きな穴を掘り、そこに水を溜め、足を入れて心地よい水の冷たさを感じている場面がありました。でもその水はあっという間に減っていきます。そこで子どもたちは考えるのです。「そうだ、もっと水を入れよう」と。何度も何度もバケツやペットボトルを使って水を運びます。その過程でもタライからペットボトルに水をうまく入れられず苦労する場面もあります。翌日、担任たちは「じょうご」をさりげなく出しておきました。もちろん使い方は伝えません。すると、『これを使ったら、たくさん水を入れることができるかもしれない』と見慣れないその道具を使って水を入れてみる姿がありました。それを見ていた友達もその道具のすばらしさを感じ、まねて使い始めます。そう繰り返すこと数日。

いまだ、忙しそうに穴に水を運ぶ子どもたち。ある日、担任は雨どいを出しておきました。その道具を使ってみたいという気持ちから早速使い始めます。でも穴までの距離があること、水が思うように流れないことに気付きます。そこで、バケツを台にして雨どいを斜めになるように設置しました。『これでうまくいくかもしれない』子どもたちの表情は真剣です。高低差が必要だということを実験から学んでいた場面でした。それでも雨どいをまだ使いこなすところまではいっておらず、その後も勢いよく水を流すとすぐに雨どいがはずれるなどの失敗を何度も経験します。でもあきらめません。試行錯誤を繰り返し、さらに斜めにすると水が思うように流れることに気付いていくのでした。今も水を流す子どもたちの研究は続いています。担任たちは、同じプロジェクトにかかわる一員になりながら、子どもたちが自ら考え、気づき、工夫し、試行錯誤しながらプロジェクトに挑戦する姿をじっと見守るのでした。子どもたちは、確信はないけれど、『〇〇かもしれない』と前のめりで、自ら向かう中でたくさんのことを吸収しています。知りたいことはすぐに情報端末によって知ることのできる時代。だからこそ、これからの時代を生きていく子どもたちにとって、直接体験を通して得る学びはとても大切で本物の学びになるかもしれない…いえ絶対に本物の学びになる、と確信しています。

